

LS5 ランチョンセミナー5



2023年

12月8日(金)

12:00~13:00

会場:パシフィコ横浜ノース
第5会場(G401)

座長



松田 秀一 先生 (京都大学医学部附属病院 整形外科)

演者
1



竹内 良平 先生 (横浜石心会病院 関節外科)

早期社会復帰が可能な膝周囲骨切り術

演者
2



長嶋 遼 先生 (横浜石心会病院 リハビリテーション科)

AKO術後リハビリテーションの新展開

■ 認定単位 単位種別 N 整形外科専門医資格継続単位 1単位
必須分野:[12]膝・足関節・足疾患[13]リハビリテーション(理学療法、義肢装具を含む) 1単位

第1回日本膝関節学会 ランチョンセミナー5

日時：2023年12月8日(金) 12:00～13:00

座長：松田 秀一 先生 (京都大学医学部附属病院 整形外科)

■ 早期社会復帰が可能な膝周囲骨切り術

演者1：竹内 良平 先生
(横浜石心会病院 関節外科)

脛骨近位骨切り術にはclosed wedge HTO(CWHTO), open wedge HTO(OWHTO), 脛骨粗面下骨切り術(OWDTO)などの術式がある。CWHTOは膝蓋・大腿関節症(PFOA)に対しては良い影響があるが、長期間のギプス固定や時に腓骨神経麻痺などの合併症が発生するなどの欠点を有する。近年OWHTOが導入され合併症が減り、術後のリハビリ期間が大幅に短縮されたことを契機にその手術件数は増加に転じた。OWHTOの手法は比較的シンプルで術中に矯正角度が調整することができ、ロッキングプレートと吸収置換型人工骨を併用することにより早期荷重が可能となった。しかし、術後に続発するPFOAは無症状であるという報告も散見されるがこれが発生しないことが好ましい。近年本邦ではOWDTOの件数が増えてきたがOWHTOに比べて骨癒合までの期間が長く、さらに外側ヒンジ骨折が合併すると遷延癒合や偽関節に至ることも報告されている。今後骨切り部の安定化が得られる術式や内固定材の開発、骨癒合を早める解決策が登場すればOWHTOに代わる手術方法として発展することが期待される。本講演では早期社会復帰が可能となり得るOWDTOの手術方法と短期成績について述べる。

■ AKO術後リハビリテーションの新展開

演者2：長嶋 遼 先生
(横浜石心会病院 リハビリテーション科)

膝周囲骨切り術後の早期社会復帰を実現するには、骨切り部の固定性向上のみならず、拘縮や筋力低下を防ぎながら、安全な荷重訓練を進めることが重要である。当院では2019年から、各術式において、荷重時期や運動療法の開始時期を早める工夫を行っている。各術式のリハビリテーションプログラムの変遷と、それに伴う臨床的アウトカムの変化について報告する。1) Open Wedge Distal Tuberosity Tibial Osteotomyでは自家骨移植併用術の開始に伴い、術後1週間での全荷重訓練を開始した。Lateral Hinge Fractureの評価としてthermographyやエコー評価を行っている。Thermographyでのhinge部に限局した熱や、エコーで不安定性を認めた例は荷重時期を遅らせる必要があると考えている。2) Distal Femoral OsteotomyやDouble Level Osteotomyではdual plateの使用に伴い術後2週間での全荷重訓練を開始した。3) Hybrid Closed Wedge HTOではadditional screwの使用に伴い、術後2週間での杖歩行獲得率が有意に上昇し、術後3ヶ月での膝伸展筋力復帰率も有意に上昇した。骨切り部の固定性が改善するにつれて、術後リハビリテーションもそれに追従する必要がある。

「膝周囲骨切り術後」関連製品のご提案 詳細はこちらから▶▶▶

AKO術後の固定、治療、リハビリまでトータルでサポートします!



超音波骨折治療器 アクセラス2

Accellus 2

30 mW/cm² → 60 mW/cm²
選べる2段階出力



2プローブ設計、
超音波2段階出力で効率的で的確な照射に



OWDTO DLO Hybrid CWHTO
医療機器認証番号 229AHBZX00016000

- 2ヶ所同時照射したい症例に
- 大腿部など深部への照射に
- 音声ガイダンス付きで高齢者でも使いやすい

ギプス包帯 ハイブリッドシーネ ニー

伸展タイプ 屈曲タイプ



医療機器届出番号 13B2X00187000045

ギプスシーネの固定力とサポーターの快適性を兼ね備えた、ギプス料で運用できる膝関節専用のギプス材料

ICING SYSTEM CE4000II



医療機器認証番号 305AHBZX00015000

AKO術後やリハビリテーション後のクライオセラピーにおいて、0～18℃の設定温度で手間をかけずに連続冷却を行える冷却装置